

会 議 録

| | |
|------------------|---|
| 1 会議名 | 令和元年度 第3回富士見市産業振興審議会 |
| 2 開催日時 | 令和2年1月20日(月) 午前10時00分から正午 |
| 3 出欠席者名(順不同・敬称略) | (出席者) 猪瀬 典夫 会長、中野 一宏 委員、小嶋 雄一 委員、寺沢 靖 委員、田坂 佳宏 委員、齋藤 美知子 委員、西本 則子 委員 (欠席者) 田中 金治 副会長 |
| 4 傍聴者 | 0名 |
| 5 次第 | <p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 審議事項</p> <p>① 富士見市産業振興基金を活用した事業の検証及び新たな拡充について</p> <p>② その他</p> <p>4 閉会</p> |
| 6 議事内容 | <p>3 審議事項</p> <p>① 富士見市産業振興基金を活用した事業の検証及び新たな拡充について</p> <p>配布資料について、事務局から説明。</p> <p>【質疑・意見等】</p> |
| 会長 | 資料の中で、新たな項目が追加された。企業立地と新規就農者についての就学援助の項目である。その他の項目も拡充がなされているところである。委員の皆様のご意見を伺いたい。 |
| 委員 | 経営改善の機器購入費については、過去に機器導入したものは対象になるか。 |
| 事務局 | 過去に導入した機器については対象とならない。また、本日配布させていただいた資料については、あくまで案として作成しており、確定はしていないため、必ずしもすべての項目が実現できるということではないことをご理解いただきたい。 |
| 会長 | 審議会での意見を答申の形で市長にお返しする。その後実際の制度として活用していくため事務局で内容の精査に入っていくと思われる。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 県が休眠特許の活用について、呼びかけていることもあるのでそういった制度などと上手く絡めて活用できると良いのでは。 また企業内保育等の設置に関しても補助金が利用できるようだがどのように活用することを想定しているか。 |
| 事務局 | 企業内保育の設置に関する直接的な補助金という位置づけでなく、企業内保育を導入するにあたり、講習等で学ぶ際の参加費などを想定している。 |
| 委員 | 子どもを預けられる場については、女性社員が継続的に働けるまたは就職する際に注目されている大きな課題だと思われる。補助金などを活用して、導入について考えられる機会があることは良い。 |
| 会長 | 富士見市版の経営革新計画を作るとすると埼玉県経営革新計画には無い富士見市独自の視点が入ると良い。経営革新計画は作成する事業所側のハードルが高いと言われているが、富士見市版の計画ではどの程度のレベルを想定しているか。 |
| 事務局 | 事業所側の経営の見つめ直しになり得る計画であることと、作成のハードルを下げることのバランスを取っていききたい。今後作成するうえで最終的に、市の補助金の交付目的などを鑑みながらより良い制度としていききたい。 |
| 委員 | 経営者として、事業の見直し・改善のプロセスとビジョンを整えることは企業成長のために欠かせないことであると思う。富士見市版の経営革新計画もそういった視点を持ち、ハードルを下げすぎないことも必要であると感じている。 |
| 会長 | 事業計画に基づいて、事業の発展のために活用されることが望ましい。むやみにハードルを下げず、事業の見直しをしていただくことが事業所の発展にもつながる。 |
| 事務局 | 事務局としても、まずは事業の発展のために今一度事業計画を見直すきっかけとしていただきたいと考えている。 |
| 委員 | 計画については、県の経営革新計画であっても、いざ取り組んでみるとそれほど困難ではない。事業内保育の話に戻るが、保育は資格も含めてできるスキルを持つ人が必要になる。様々な方のセカンドキャリアにもつながる可能性がある。 |
| 会長 | 事業の発展や新しいことにチャレンジするためには一定程度の綿密な計画と準備が必要になる。 |
| 事務局 | 実際、チャレンジが失敗に終わったとしても、お支払いした補助金をお返しいただくことは現実的に難しい。そのためにも一定程度の計画をお示しいただく必要がある。 |
| 会長 | 富士見市の製品等のブランド化についても今回の資料で改善がなされているが、団体についても補助金を出す考えはあるか。 |
| 委員 | 団体にはNPOなども含まれるか。 |
| 事務局 | 全ての条件を満たしていれば、NPO等の団体でも可となる可能性はある。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 認定農業者チャレンジ支援事業補助金については、上限金額を上げていった方が 良いのでは。 |
| 委員 | 現状では新たな作付けのみが対象となっているが、今回の資料では前回の意見が 反映され、収穫量の拡大も対象となっているため改善が図られていると感じる。 金額面については、農業機器については非常に高額なものも多いため、上限金額 を上げられるのであれば検討いただきたいが、まずは対象範囲の拡大からという ことでも良いと感じている。 |
| 会長 | 農業者自身からの上限額に関する要望は無いのか。 |
| 事務局 | 金額面の話まではなかなか辿り着けていないケースも多い。まずは対象範囲の拡大で 使いやすさを感じていただければと考えている。使いやすさも大切にしたいが、 農業改善計画を通して今後の発展について見直していただくことも目的として いる。 |
| 委員 | 補助対象の拡大で、背中を押される農業者は出てくると思う。収穫量の拡大などは イメージも比較的湧きやすい。 |
| 委員 | 工業関係の事業所などで、中には水耕栽培などを新たな事業として考えている方も いる。農業者の新たな仕事として、アドバイザーという立場で各工場を回り、 安全でおいしい野菜作りを共同で開発・収穫するということも考えられないか。 |
| 会長 | 水耕栽培などは農地でなくても作物が育つ。将来的な展開として農業の新たな形 が生まれることは十分に考えられる。 |
| 委員 | ミントなどは管理が大変で育てるのが難しいため、高値で取引されている。すでに 機械設備が整っている事業所などが水耕栽培などに取り組むことも将来的には 可能性がある。 |
| 会長 | 具体的にチャレンジしようと思うと、様々な助成の制度があると思う。ただなか なか商工業者と農業者をつなぐコミュニティが無いことが実際の問題としてあ る。農商工連携・グルーピング化がうまく進んで新たな事業、製品、農産物が生 まれていくと良い。 |
| 委員 | 企業立地の健康診断はどのような観点で組み込んだのか。 |
| 事務局 | 受診率の問題という観点ではなく、市内の企業立地において市内雇用を高めるた めのインセンティブとして考えている。 |
| 委員 | 健康診断よりも、インフルエンザの予防接種のほうが喜ばれるのではないかと。イン パクトもあり、インフルエンザの罹患率を下げ、作業効率を上げることに繋 がる。 |
| 事務局 | 市内雇用を高め、継続して働き続けていただくためにも今後も企業立地のインセ ンティブとしてよりよい内容を検討していく。 |
| 会長 | 今回、農業の分野においては対象の拡充に留まっているが、そのあたりは農業者 としてはどのようにお考えか。 |
| 委員 | 対象の拡大により申請者が増加することも考え、できる限り多くの方に活用して いただくためにも拡充に留めては。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 認定農業者を増やしていくことも大きな目標である。そのためにも成功事例PRや、説明に向向いていく必要がある。 |
| 会長 | PRについては今後積極的に取り組んでいただきたい。その他のご意見はいかがか。 |
| 委員 | 農産物についても安心・安全な富士見市ブランドを広く周知し、販売していくための販路が必要になると感じる。農業分野にも販路開拓で活用できる制度が必要では。 |
| 会長 | 中小企業チャレンジ支援制度は、農業者でも使えるようにするとよいのではないか。 |
| 委員 | 美味しいものだと分かると消費者は購入する。農園のファンになっていただけると、とても良いリピーターになっていただける。他との違いを消費者の前でPRしていくと固定ファンの獲得に繋がる。そのきっかけ作りが大事になると思う。 |
| 会長 | 農業者でも販路の開拓・商品の開発など、活用できることが分かりやすいよう、制度説明に明文化していくことも必要。都心での展示会、都心への販売ルートも活用していくのも良いのでは。 |
| 委員 | 明文化していただくのはイメージもつきやすくなり、良いと思う。 |
| 委員 | 農産物については、食べてみないと違いや美味しさがなかなか分からないため、伝えていける方法を模索し続けることも必要になっていくと思う。 |
| 委員 | 農業者として、今ある販路だけではなく、都心への出荷なども新たな販路開拓として必要だと感じる。 |
| 会長 | 常設は難しくても、何らかの発信力があるマーケットがあると良い。 |
| 委員 | 様々なマーケットがあると思うので、そういった販売機会をきっかけに、品質の良さを伝えていくことも良いと思う。 |
| 事務局 | 地域ごとのマーケットについては既存のバスケット朝市などもある。固定ファンを農業者・事業者それぞれが獲得するきっかけになればと思っている。 |
| 委員 | 補助額の上限については、事業者の発展、経営の継続の観点からも今一度ご検討いただきたい。 |
| 委員 | 意欲・計画性・将来性がある事業者の後押しをしていくことが大前提だと感じる、補助金を適切に活用していただく、補助金としての在り方という観点も大切。 |
| 会長 | 制度の見直しについては、概ね、委員の皆様の了承をいただけたところであるが、答申としては、課題として挙げた富士見市チャレンジ計画や補助金限度額などについては審議会での審議だけでは詳細までは決めきれないため、継続して調査・見直し・改善に取り組んでいただけるよう盛り込んではいかがでしょうか。 |

| | |
|----|---|
| 委員 | 実績の中で、活用した事業者の声や要望も聞きながら、積極的に活用していただけるよう、PRするとともに制度内容の充実に取り組んでいただきたい。インフルエンザの予防接種の助成金などは、働く方・雇用する方の生の声が聞けて良かったと感じる。 |
| 会長 | 内容として、具体的に付け加えたいということがなければ、これをもって審議を終了し、答申へと進めてよいのか。 |
| | 委員一同了承。 |
| 会長 | 全3回の会議の中で、様々なご意見をいただきありがとうございました。今回の審議内容を取りまとめ、答申とさせていただくこととし、審議会を散会とする。 |
| | 閉会 |